ぼくが　ここに

まど・みちお

ぼくが　ここに　　まど・みちお

ぼくが　ここに　いるとき
ほかの　どんなものも
①ぼくに　かさなって
ここに　いることは　できない

もしも　ゾウが　ここに　いるならば
そのゾウだけ
マメが　いるならば
その一つぶの　マメだけ
しか　ここに　いることは　できない

②ああ　このちきゅうの　うえでは
こんなに　だいじに
まもられているのだ
どんなものが　どんなところに
いるときにも

その「いること」こそが
なににも　まして
すばらしいこと　として

確認テスト　詩を読んで、問いに答えなさい。

(1) 「ぼくが　ここに」の詩の種類として適当なものを二つ選びなさい。

ア 文語詩　イ 口語詩
ウ 定型詩　エ 自由詩　オ 散文詩

［　・　］

(2) 第三連で用いられている表現技法として適当なものを選びなさい。

ア 直喩（ちょくゆ）　イ 体言止め　ウ 倒置（とうち）

［　］

(3) ――線①「ぼくに　かさなって／ここに　いることは　できない」とはどういうことを表しているか。適当なものを選びなさい。

ア あらゆるものは、互（たが）いに支え合うことなしには存在することができないのだということ。
イ どんなものも、「ぼく」が今存在している空間に、同時に存在することはできないのだということ。
ウ 「ぼく」が存在している場所とは別の場所に、同時に「ぼく」が存在することはできないのだということ。

［　］

(4) ――線②「ああ　このちきゅうの　うえでは……まもられているのだ」とあるが、ここで述べられていることとして適当なものを選びなさい。

ア この世界のあらゆるものは、そこに存在するということそのものを保証されているのだということ。
イ この地球上の生物はかけがえのないものであり、保護していかねばならないのだということ。
ウ この社会の人々は、自分では気づかないうちに誰（だれ）かに助けられているのだということ。

［　］